

私立大学研究ブランディング事業

平成29年度の進捗状況

学校法人番号	201004	学校法人名	佐久学園		
大学名	佐久大学				
事業名	健康長寿(佐久)を牽引する「足育(あいく)」研究プロジェクト				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	360人
参画組織	看護学部・看護学研究科・地域連携推進センター・佐久大学信州短期大学部				
事業概要	健康長寿を足の健康から展開する研究プロジェクトを全学的に推進し、子ども・成人・高齢者を対象とする実態把握に基づき、足の健康教育プログラムを開発する。産・学・官及び医療機関との協働の下、本学が足の健康づくりの拠点となり、研究成果の情報発信、企業による足の健康関連製品・機器の開発への支援、基本的なフットケアができる専門職の人材育成、地域住民への知識の普及を図ることで、本学のブランドを広く浸透させる。				
①事業目的	<p>1. 本事業の背景と着眼 佐久地域は、農村医療発祥の地、そして健康長寿の高齢者が多いまちとして知られ、地元自治体の佐久市も「世界最高健康都市」構想を掲げている。本学も、地域の保健・医療・福祉に寄与する大学として「佐久」の名と共に社会的な認知が高まっている。長寿県、長野県ではあるが、健康長寿の維持・延伸には、歩行運動の低下などの課題があり、足に関しては、必ずしも適切でないシューズなどの着用が足の健全な成長を阻害しているという側面もある。</p> <p>2. 「足の健康」の現状と課題 「歩く」という行為は、人間の基本動作であり、健康面、精神面、社会面、健康な環境、医療コスト削減などの多様な局面で効果・効用をもたらすが、一方で、「歩く」ことを支える「足のケア」と「足に合った靴」に関しては、保健・医療・福祉従事者でも意識が低い。小学生の約60%、20歳代女性では調査対象者全員、高齢者の約96%に外反母趾等何らかの足の異常が認められる報告もある。</p> <p>3. 本事業の目的と特色 本事業の目的は、住民、行政、保健・福祉・医療関係者が一体となって進めている、佐久地域の「健康長寿のまちづくり」を発展させるうえでの重要課題の一つである足の健康問題に、大学が、教育・研究資源を動員して取り組み、その成果を情報発信し、関係者と連携、協働して、具体的な施策、実践、製品開発等に結び付けることで、地域貢献を高め、大学のブランディングを図ることである。</p> <p>4. 事業の内容 本事業の内容を、事業展開に沿って要約すると以下のようである。 ①「足の健康」に関する実証データ、改善課題の分析 ②研究の3つの実践指標の提示 上記の研究成果を基にした「a 足の健康教育プログラム」、「b 足の健康教育(足育)人材育成プログラム」、「c 足健康測定器・足健康シューズの改善モデル」の三つを開発・作成し情報発信する。 ③研究の応用的展開の3つの場面－連携・協働による本学のブランディング</p>				
②平成29年度の実施目標及び実施計画	<p>【目標】 (1) 地域住民への足の健康調査を実施し、足への関心や足育の教育事業に関する本学への要望を把握する。 (2) 足育相談事業によるサポートセンター来所者が抱える足トラブルの相談内容を集約し、フットケアの人材育成に含むべき教育内容を精選する。 (3) 看護職及び看護学生への足の健康とナースシューズと関係性を分析し医療職・ケアワーカーが働きやすいシューズについて検討する。</p> <p>【実施計画】 (1) 地域住民への実態調査は、現在実施している看護学生への足や靴への関心を問う項目を基本とする。また本学の足育研究に求めることが把握できる項目を追加して長野県内の保健指導員に調査協力を依頼する。 (2) 相談件数は70件である。相談者の特性、相談内容、指導内容および反応、その後のフォローアップを含めて、相談者の実態を分析し、代表的なトラブルとその対応を明らかにし、教育内容を構築する。教育内容の妥当性の検証、教育プログラムの構築にあたり、専門家会議を開催し、精選していく。また、教員が新しい知識を蓄積できるように、足や靴の教育が普及しているドイツ研修への参加を計画する。 (3) 平成28年度に実施した学生への足育教育と個人仕様ナースシューズの感想を把握する。足や靴への意識の変化の調査結果を分析する。臨床看護師のナースシューズの摩耗の影響を分析結果を公表し、看護師への足と靴の健康に関する意識向上の啓発を行う。</p>				

<p>③平成29年度の事業成果</p>	<p>(1) 地域住民への足の健康調査による足育に関する本学への要望把握について ①佐久市民の日健康イベント(平成30年3月10日)、ぞっこんさく市健康テーマパーク(平成29年9月30日、10月1日)等のイベントに参加、来場者約200名。企画参加(出展)者からは、足育の啓発活動の推進と採取したフットプリントの分析(カウンセリング)担当者を増やして欲しいとの声が多く寄せられた。また、近隣の小学校、高等学校へのフットプリント採取や講話など出前足育講座では、4件で、全て、次年度も継続実施の要望があり、確実に本プロジェクトへの期待の大きいことが把握でき、本プロジェクトの当初計画に沿った結果となっている。</p> <p>(2) フットケア人材育成に含むべき教育内容の精選と教員の知識蓄積のための研修実施 ①ドイツ靴マイスターによる教職員向け足育講習会の実施 平成30年1月27日と平成30年2月10日(土)の2回に渡り、ドイツの靴マイスターによる、足骨の役割、機能とフットプリント(足型)の採取と分析の知識蓄積のための教職員向けの講習会を実施。講習会には、教職員のみならず、佐久市足育推進協議会からも参加し全体で約40名。実技演習や課題を通して、全学的にフットプリントの採取スキルと分析力の向上へつながった。</p> <p>②学内足育核要員のドイツへの派遣、知識の習熟 11月25日～12月3日の間、教員をドイツへ派遣(1名)。ドイツ整形外科靴職人マイスターの下でフットケアに関する講習を受講し知識を蓄積。本プロジェクトの核要因として牽引できる知識が備わった。同時に、フットプリントの採取スキルと分析力の向上を行った。</p> <p>③佐久市足育推進協議会足育サポートセンター来所者への相談内容の実態分析 平成29年度の足育サポートセンター来所者総数は44人で、平成27年開所以来の延べ人数は131人にのぼる。外反母趾(41%)、巻き爪(31%)などの相談者の来談理由等を把握し、足爪トラブルの実態を基に、今後の予防対策のポイント抽出につなげていく。 また、センターでは、JICAによるタイヤブラジル等の海外研修生の視察見学、周辺地区保健補導員等のフットプリント実施体験と足育教育等の内容で、団体の視察の受入も行った。</p> <p>(3) 看護学生へ支給したナースシューズと足の健康の関係を調査・分析し、看護師の足育への意識向上の啓発を行う 本学、看護学生(1、2年生)へ実習用シューズを配布(約300足)、実際の実習期間中に利用した結果をアンケートを取り、分析を行った。また、大学祭での来場者のフットプリント採取そしてボランティア活動して市内の産学官連携の各種イベントにて、フットプリント採取者として参加(延べ37名)。学生自身の知識とスキルを含めた足育への意識向上が図られた。</p>
<p>④平成29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) ●平成29年11月採択からの初年度総括として、本プロジェクトは順調に進んでいると言える。特に本プロジェクトを牽引する本学教職員の足育に関する知識の蓄積では、ドイツ整形外科靴マイスターによる2回の講習会を含め「フットケア人材の育成」の初年度目標は達成していると言える。 実施計画の3項目については、地域住民への健康調査から本学への要望を把握する部分については、地域全体レベルまでの取り組みとできていないものの、フットケア人材の育成と看護学生への実習用シューズの配布と着用結果の分析については上記③事業成果記載の通り実施できている。また、地域住民への啓発活動においては、佐久市や佐久市足育推進協議会と協働して、周辺市町村の保健補導員、小学校、高等学校等への出前を含めた講座を行うなど、2年目に向け各世代への啓発を本格的に推進するの土台を整えた。</p> <p>(外部評価) 本事業は、農村医療、健康長寿の先進地という地域性に対して、地域唯一の高等教育機関として「足からの健康(足育)」をコンセプトに地元自治体、小中高等学校などをはじめとした地域住民と協働することで、地域全体の健康がさらに推進されることを牽引していくことがブランド化につながる、地域特性や大学の専門性を生かした良質なブランディング事業となっている。 初年度では、11月の採択からの期間において、今後の事業を推進していく上で最も重要とも言える足育推進のための人材の育成に力を入れたことが評価できる。特にドイツの整形外科靴マイスターを2度にわたり招聘し、教職員の多くに受講させたことで、学園全体でブランディング事業に取り組んでいく環境を整えたことは大きなポイントとなった。</p>
<p>⑤平成29年度の補助金の使用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・育成費用: 足育関係の研修会参加費用及び講習会開催費用、講習会用機材等の整備費 ・啓発活動費用: 健康等イベント参加費等 ・管理等費用: フットプリント関連開発機器特許取得費等 ・広報関連: ブランディング事業「足育」ロゴマーク製作費等